

Since 1921

ハリオの品質は長い歴史が培ったものです。



「写真：日本理化学硝子運動五十年史」
木下義夫著 提供

柴田弘製作所カタログ
「ヒロム印硝子濾過器」表紙

- 1921年10月 東京・神田須田町に柴田弘製作所を創立。理化学用硝子器具の製造・販売を開始する。
- 1937年 4月 柴田弘製作所、合名会社に組織替え。
- 1940年 8月 台東区上野花園町に工場及びガラスるつぼ炉建設。ガラス熔融の研究に着手。
- 1943年 3月 柴田弘製作所と柴田正製作所を合併。合名会社柴田製作所を設立。
- 1945年 3月 柴田化学機械工業株式会社として組織変更。
- 1947年 3月 ヒロム印ピーカー、フラスコ、シャーレ、冷却器製造開始。
- 1949年 8月 多年の研究が実り「ハリオガラス」の熔融に成功。
- 1951年 5月 東京都江東区白河に硝子熔融炉を設備。一貫作業の深川工場を新設。
- 1955年 6月 新工場に業界初の硬質1級ガラス「ハリオガラス」用タンク炉完成。
- 1957年11月 深川工場分離。柴田ハリオ硝子株式会社を設立。
- S7型サイフォン発売。
- 1961年 9月 JIS表示許可工場（化学分析ガラス器具・ガラス管棒）認定。
- 1962年 2月 ハリオビル落成。
- 5月 業界初の自動ガラス管成形機を設置。
- 1963年12月 業界初の自動吹成形機を設置。
- 1964年 4月 耐熱ガラス食器販売部門を分離独立、「ハリオ株式会社」（旧・ハリオ商事株式会社）を設立。
- 1965年 4月 「フリーザーポットの一号型」発売。サイフォンとともに主力製品となる。
- 1968年 1月 硬質1級「ハリオ-32ガラス」開発に成功、量産に入る。
- 4月 茨城県猿島郡三和町諸川1371に土地27,000m²取得。古河工場建設準備に入る。
- 1969年 4月 耐熱ガラス製保存容器初代「サイクルウェア、S,M,L」発売。
- 1971年 1月 古河工場完成。
- 3月 古河工場本格稼働、生産開始。
- 10月 創立50周年記念行事と併せ、古河工場落成披露。
- 1972年12月 独自の技術により「直接通電式ガラス熔融炉」の開発に成功。同設備による本格生産に入る。
- * 1977年2月/日本発明大賞受賞
* 1983年3月/科学技術庁長官賞受賞
- 1979年 9月 「ハリオール」発売。
- 1980年 8月 自動車用ヘッドレンズ分野に進出。
- 1983年 6月 本社を東京都中央区日本橋に移転、資本金4,000万円に増資。
- 10月 古河工場に世界初のコンピュータ制御によるガラス製品の多種少量生産ラインを完成。本格生産に入る。
- 1985年10月 古河工場を分離独立させ、「シバタガラス株式会社」を設立、資本金3億円。
- 1987年 9月 ハリオ株式会社、資本金1億円に増資。
- 1988年 1月 ガラスの急須「茶茶」発売。
- 1992年 1月 イタリア、ヴェトリエ社に対し、硼珪酸ガラスの電気熔融技術供与契約締結。
- 1993年 8月 中国・沈陽玻璃儀器廠へのプラント完成。ハリオ株式会社、発祥の地東京都江東区白河に移転。
- 1997年 1月 資本金4億円に増資。
- 1999年 4月 ハリオ株式会社、シバタガラス株式会社と合併。「ハリオガラス株式会社」設立、資本金4億5千万円に増資。
- 9月 ハリオ物流センター設立。
- 2000年12月 古河工場、ISO9001認定工場となる。
- 創業80周年記念事業の一環として、本社を東京都中央区日本橋富沢町9-3に移転。
- 2001年 1月 ガラスの急須「茶茶急須」発売。
- 11月 古河工場、ISO14001認定工場となる。
- 2003年 2月 古河工場、OHSAS18001認定工場となる。
- 7月 日本橋本社ビル登録有形文化財として文化庁より「貴重な国民的財産」に認定される。
(登録番号 13-0148)



ヒロムブランド
耐熱トースター



S7型サイフォン



フリーザーポット



初代サイクルウェア



ハリオール



茶茶



茶茶急須